

市総合防災訓練を実施

「自助・共助・公助」による減災と防災力向上

市総合防災訓練が11月7日に行われ、市内で約1万人が訓練に参加しました。

この訓練は、今後30年以内に約60%の確率で発生するといわれる東南海・南海地震に備え、防災関係機関の迅速での確な連携対応と、自主防災組織や住民の地域防災力の強化を目的に、今回、島内3市で同日に実施されました。

訓練は「午前8時、マグニチュード8.6の海溝型巨大地震が発生して津波警報が発生。市内各地で甚大な被害が発生している」との想定で行いました。屋外スピーカーやCATV等での告知・広報訓練に始まり、メイン会場の福良小学校では、津波に対する住民避難訓練や今年度市内に



▲自治会や消防団による初期消火訓練



▲女性消防団などでしこ分団による救命講習

15台配備した衛星携帯電話を使つての通信訓練を実施。運動場では自治会や消防団員による初期消火や医師、看護学校生らによる応急救護の訓練が行われたほか、県からの備蓄物資搬送や防災資機材の操作方法の確認を行いました。また、海岸では水門等の閉鎖、さらに市内の公会堂等では自主防災組織や地元消防団が有事の際に備えて訓練しました。災害時には「自助・共助・公助」が互いに連携し一体となった対応が重要である



▲模擬消火栓での放水体験



▲傷病者の救急搬送訓練

ことを今回の訓練で再認識しました。

「島民討議会」が報告書を提出



▲討議会の報告書が淡路県民局と3市に提出されました(10月12日、洲本市役所)

淡路島の将来に向けて島民同士が話し合う島民討議会



▲受章の細川さん(右)、中田市長(左)からお祝いの言葉が贈られました

総合アパレル企業・ジャヴアグループ会長の細川数夫さん(菅屋市)が「紺綬褒章」を受章されました。

細川さんは南あわじ市出身で昨年12月、「ふるさと南あわじ応援寄附金」として1000万円の寄附をされました。同年2月にも母校の八木小学校にグランドピアノを寄贈されています。紺綬褒章は、公益のために多額の私財を寄附した人に国から授与されるもので、10月28日に神戸市内の本社で、内閣総理大臣に代わって中田市長より伝達されました。

淡路島の未来を考える



▲討議会での意見交換

(淡路青年会議所と島内3市共催)の結果がまとまり、行政へ反映してもらうため、淡路県民局と3市に報告書が提出されました。その内容は、一般公募で島内外から参加した約60人が、①家族が幸せになるためには、②地域が元気になるためには、③子どもたちに残したい淡路島にするためには、の3つのテーマで7月17日と18日の2日間で討議された報告書です。討議では「行政任せでなく、自身で行動していかなければならな

いという機運も高まった」と伝えられ、市では、この報告書を受け、将来の淡路島の発展のために取り組んでいく参考にしたいと考えています。※報告書の内容は、市長公室で閲覧できるほか、島民討議会のホームページhttp://www.awaji-jc.or.jp/tomin/に掲載されています

「鳴門海峡」歌碑を道の駅に建立

大鳴門橋開通25周年を記念して、歌手・伍代夏子さんの歌『鳴門海峡』(吉岡治作詞、



▲鳴門海峡大橋を背景に建立された歌碑を除幕した五代さんら

水森英夫作曲)の歌碑が道の駅うずしお内に完成し10月24日、除幕式を行いました。

御影石製の歌碑は、幅約3m×高さ約1.5mで、総工費は約180万円。土台には青緑色・和型の淡路瓦34枚を敷き、うず潮の波をイメージしています。歌碑の中央部には、作詞者・故吉岡さんの直筆で歌詞が彫られています。右側のボタンを押すと、『鳴門海峡』の歌が流れ、歌詞を見ながら歌を聞けます。式典では、伍代さんの「鳴

大鳴門橋開通25周年記念



▲鳴門海峡うず潮観光大使の任命書を持つ伍代さん

門海峡うず潮観光大使」の任命式も行われ、中田市長から瓦製の任命書が手渡されました。観光大使になるのは初めてという伍代さんは、「淡路島は大好きなところ。緑や花が多くいいところがたくさんある。素麺や鯛も美味しい。すごく縁を感じます。責任を感じながらも、多くの人に伝えていきたい」と話しました。

技能功労者表彰

永年優れた技能で、地域社会の発展に貢献した20人の功績を讃える「南あわじ市技能功労者表彰式」が11月23日、緑市民センターで行われました。(順不同、敬称略)

井内 光彦 (潮美台、造園師)
田村 彰 (八木、大工)
宮本 周二 (阿万、大工)
立石 繁一 (神代、大工)
大谷 富男 (阿那賀、左官)
金山 清忠 (広田、金型工)
稲本 保男 (広田、建具職)

奥野 一男 (榎列、建具職)
富岡 卓也 (湊、時計修理工)
塩谷 倫子 (賀集、美容師)
松下 絹子 (福良、美容師)
原口 誠 (阿万、理容師)
山野 朋治 (倭文、自動車整備士)
入谷 吉彦 (神代、自動車整備士)
長尾 義幸 (福良、製麺職)
原田 守 (阿万、鉄工)
田中 正美 (榎列、機械工)
厚美 嘉昭 (津井、製瓦職)
川口 正雄 (松帆、製瓦職)
若林 繁 (松帆、製瓦職)

ふるさと納税

ご寄附ありがとうございます。

ふるさと南あわじ応援寄附金		
寄附状況の公表 (11月10日現在)		
区分	件数	金額
南あわじ市内	333件	46,202,219円
市外(島内)	47件	5,871,000円
市外(島外)	209件	27,664,940円
合計	589件	79,738,159円

詳細は市のホームページに掲載しています

細川数夫さんが紺綬褒章を受章



▲受章の細川さん(右)、中田市長(左)からお祝いの言葉が贈られました

総合アパレル企業・ジャヴアグループ会長の細川数夫さん(菅屋市)が「紺綬褒章」を受章されました。

細川さんは南あわじ市出身で昨年12月、「ふるさと南あわじ応援寄附金」として1000万円の寄附をされました。同年2月にも母校の八木小学校にグランドピアノを寄贈されています。紺綬褒章は、公益のために多額の私財を寄附した人に国から授与されるもので、10月28日に神戸市内の本社で、内閣総理大臣に代わって中田市長より伝達されました。

ふれあい市長室 キラリと輝く南あわじ市をめざって

南あわじ市長

中田勝久

先日の臨時議会において、住民の直接請求による「南あわじ市新庁舎建設について市民の意見を問う住民投票条例制定を十分に重みを確認した上、上程いたしました。直接請求は、住民の基本権として地方自治法に認められた意義深い重要な権利です。

しかし、二元代表制度をとる地方公共団体は、住民自ら選挙し多数の意思を反映して選任された議会議員や市長に付託して自治体運営がなされています。住民投票などは、市政を大きく左右する問題や、市長や議会が判断できない事実案等の場合、行うべき制度であると理解しております。

この度の新庁舎建設にあたっては、長期的視野に立った総合的判断や必要性など、内容を十分把握していただくため、住民説明会・各種団体への説明会、広報紙・CATV等で広報伝達を行ってきたところです。新庁舎建設につきましては、各庁舎の老朽化、自己財源の節約、国が定めた約7割の支援をいただける合併特例事業債の期限、行財政改革の推進、職員定数適正化、市民交流センターの設置と独

自性のある地域活性化対策など様々な角度から熟慮を重ね決断させていただきました。議会においても、高視点で多様な議論を繰り返し、市の将来のため真剣にそして慎重に検討され、一部反対意見があつたものの建設推進について適切妥当な決定をいただいたところであります。

今後においても、議会と協議を重ね、市民の皆様のご意見を真摯に受け止め、次世代に責任を持つた市政運営に邁進してまいりたいと考えております。

課題は山積みです。新庁舎建設で節減できる年間2億円以上のお金を子育て支援などの福祉や教育、産業振興、働く場づくり、防災、地域づくりなど各分野に活用して一步一步着実に前進してまいります。また、内向きではなく、すばらしい「ふるさと資源」を有する市の潜在能力を活かさなければなりません。キラリと輝く自治体、若者が夢と希望を抱ける市の構築に向かって一意専心、努力してまいりたいと存じますので、市民の皆様にはご理解ご協力いただきますようお願い申し上げます。